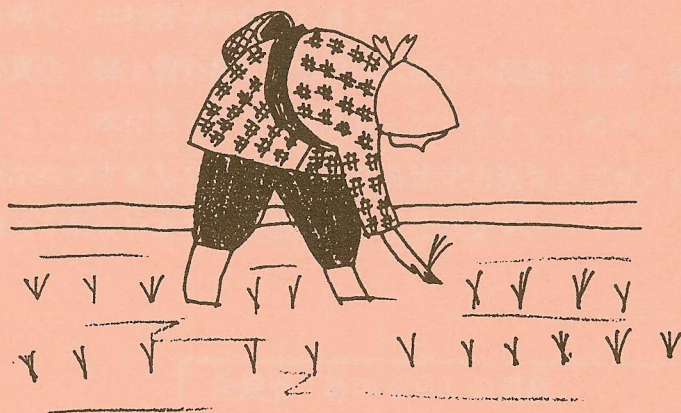


宮代町郷土資料館

平成9年度第1回企画展

昔のくらしの 道具

展示解説



期間 平成9年4月23日(水)～6月8日(日)

開催にあたって

春から初夏にかけて、田んぼでは田植えが行われ、町の風景は緑のじゅうたんを敷きつめたようになります。

このように機械化される前の田植えは、牛馬や人の手によって行われ、能率を少しでも上げるために、さまざまな工夫をこらした道具を使って行われていました。

宮代町郷土資料館では、町民の皆様から寄贈していただいた民具を約1,200点収蔵しています。これらは人々に大切に使われ、その手のぬくもりが伝わった貴重な資料です。

平成9年度第1回企画展「昔のくらしの道具」は、これら昔を物語る民具の中から、昭和30年代まで、くらしの中で用いられていたものを展示するものです。特にしろかきや田植えで用いた道具や、電化される以前の冷蔵庫などは、現在ではあまり目に触れないものとして興味深くご覧いただけるものと思います。

この展示を通して、郷土宮代の文化への関心や理解を深めていただければ、幸いに存じます。

平成9年4月23日

宮代町郷土資料館

ひと昔前のお茶の間

昭和30年代後半に始まった高度成長によって、人々のくらしが大きく変わりました。私たちの生活習慣（衣食住）は次第に洋風へ変化し、台所には冷蔵庫など新しい電化製品がどんどん登場してきました。それでは、昭和30年ごろの、お茶の間をのぞいてみましょう。

ちゃぶ台 …ちゃぶ台ができる前は、家族一人一人がそれぞれ自分のお膳を使っていました。ちゃぶ台は、明治時代になって西洋のテーブルをまねて、座敷で使えるものとして考案されました。その後次第に普及し、さらに戦後の民主主義の影響もあって、家族がみな一緒に一つの食卓を囲むようになり、一段と広まりました。

ちゃぶ台を漢字で書くと「卓袱台」です。卓袱とは、テーブルの意味で、これを中国語で読むと「ちゃぶ」という音に近いので、ちゃぶ台と言われます。ちなみに卓袱は「しっぽく」とも読み、長崎の名物の「卓袱料理」はこの字をあてます。

おひつ（櫃） …めしびつ（飯櫃）ともいいます。朝、羽釜で一日分のご飯を炊いた後は、おひつに入れて夕食まで、保存しました。そして、おひつごと、わらで編んだおひつ入れに入れて保温することもありました。

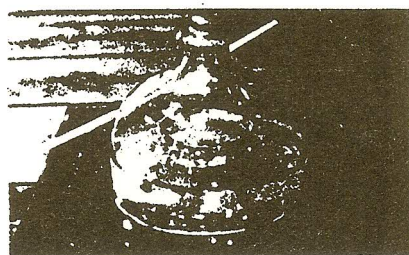
たんす（箆笥） …展示してあるたんすは衣装だんすです。これは嫁入り道具で、たんすにいっぱい「一生着られるほどの」着物を入れてきました。材料には軽く、湿気を通さず、脂を出さず、燃えにくい桐材が用いられました。

一般に用いられるたんすには、衣装だんすの他に、帳面だんす、茶だんすなどがあり、職業用では小さい引き出しが並んだ漢方薬入れの薬だんすが有名です。

ハエ取り器 …「うるさい」という言葉は漢字で書くと「五月蠅い」とも書きます。昔は下水道も完備されず、殺虫剤もなかったもので、文字通り、旧暦五月頃（現在の六月）になるとハエが飛び回り、うるさかったのでしょう。

ハエを防ぐために、昔はシュロの葉で「はえたたき」を作ったり、茶がらをいぶしたりしました。また、食べ物は戸棚に金網を張った「はいちょう（蠅帳）」に入れて保存しました。

明治以降になるとガラス製のはえ取り器が広まりました。この仕組みは底部にせっけん水を入れておくと、中央の穴から入ったハエが、せっけん水に落ちて死ぬというものです。たくさんのハエが取れたようです。



今の電化製品と比較しよう 昔のくらしを支えた道具

町内には今から約80年前、大正時代に電気が送られました。初めの送電は夕方から夜半までで、電圧も一定しませんでした。昭和になると次第に安定供給されるようになりました。さらに戦後、高度成長期になると、くらしの中のさまざまにものが電化されて、製品の値段もだんだんと安くなり、便利に快適に暮らせるようになりました。

電化される前の道具を見てみましょう。

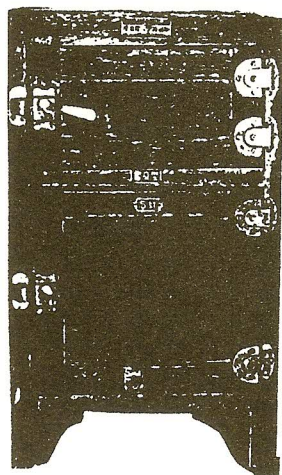
こたつやぐら …電気こたつになる前のこたつは、木枠（やぐら）の中に炭などを入れて、その上から布団で包んだものでした。このようなこたつは、江戸時代に広まったものです。

れいぞうこ（冷蔵庫） …電気冷蔵庫になる前の冷蔵庫は木製の冷蔵庫でした。この冷蔵庫は木製の箱の内側にトタンを張ったもので、上は氷室、下は食品を入れます。発売当初の値段は高く、庶民には手の届かないものでしたが、戦後から昭和30年代にかけて、庶民にも使われるようになりました。この冷蔵庫を使うためには氷が必要で、杉戸や春日部の氷屋に買いに行きました。

簡易カマド …電気炊飯器になる前は、カマドでご飯を炊きました。このカマド（ヘツイともいいます）は昭和20年ごろまで使われていたものです。カマドの上にカマツバをおき、その上に羽釜をおきます。羽釜には一升炊き、五合炊きなどがありますが、その大きさによってカマツバを重ねて調節しました。ごはんを炊くには燃料にはワラを、もち米をふかすには、火力が強い薪を用いました。



江戸時代の俳画(多焼 天保7年翻)にも「こたつ」が描かれている



冷蔵庫

しろかき・田植えの道具

昭和30年代から、農作業にも機械化の波が押し寄せました。ここでは、牛馬や人の手によって行われていたころの、しろかき（代かき）から田植えに使われていた道具を紹介します。

昭和30年ころの稲作の流れは次のとおりです。

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
←→		←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→
田		田	も	し	田	田	田	出	稲	脱	田
う		う	み	ろ	植	の	の	穂	刈	穀	う
な		な	ふ	か	え	草	草	の	り		な
い		い	り	き		取	取	時			い
								期			

田うないは、稲刈りが終わってすぐに行われ、そのあと、1月と3月～4月にかけて行われます。明治時代はマンノウを用いて人力で行われていましたが、明治末期になるとオオグワを牛馬がひいて、田うないをするようになりました。大正末期になるとオオグワの改良型であるバコウが用いられました。

もみふりは、苗代にもみ(種)をまくことです。苗代は日当たりがよく、水がよどまない所に設けられました。

しろかきは、田んぼの土壌をよく碎いて、田植えをしやすいうように平らにする作業です。牛馬にマンガを引かせて、何度も田んぼを行き来しました。

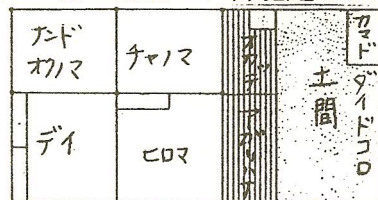
田植えは、六月下旬から七月上旬に行われました。あらかじめ苗代から苗を取り、植えやすいように束にします。それを苗かごにに入れて田んぼまで運びます。田植えは隣近所や親戚と共同で行われました。お互いの田植えを手伝いました。和戸宿地区では、地区の夏祭りであるウラ浅間(6月30日)までに何が何でも田植えを終わらせた、といいます。

祝儀の漆器

町内の農家では昭和40年代 前半まで、家で祝儀（結婚式）をあげる家もありました。田の字型の母屋のふすまを外し、広い一つの部屋にして、親戚などを呼び、一人一人に膳を用意し、御馳走をふるまいました。

一般的な農家の間取り

（田の字型）⇒



三つ重杯・杯台 …三々九度の杯を交わすときに用います。親戚の男の子と女の子が「オチョウ・メチョウ」になって、杯に酒を注ぎます。結婚式の杯（祝儀杯）には、三つ重、五つ重、七つ重、九つ重などの種類がありました。展示品の杯には朱塗りに沈金で、おめでたい文様が描かれています。

吸物椀 …祝儀に用いられるお椀は、朱塗りや赤塗りです。花嫁のお色直しのたびに吸い物が変わるので、多くの数が必要でした。

展示目録

	品 名	寄贈者		品 名	寄贈者
1	はえ取り器	青木千代子氏	11	馬鍬	萩原一丸氏
2	ちゃぶ台	柘植慎一郎氏	12	甃りこしけ	青木千代子氏
3	おひつ	折原 高氏	13	苗かご	中村克己氏
4	碁盤	渡辺恵司氏	14	苗代づくり	加藤あさえ氏
5	たんす	斎藤 繁氏	15	お膳	富田利幸氏
6	こたつやぐら	鷺谷国雄氏	16	三つ重・杯	中村多計志氏
7	手洗い桶	関根文雄氏	17	三つ重・杯	富田利幸氏
8	簡易カマド	新井 尚氏	18	吸物椀	青木佐太氏
9	冷蔵庫	関根文雄氏	19	吸物椀	島村正次氏
10	田ならし	鈴木 明氏			

（寄贈者氏名は、寄贈された当時の氏名です）

引用・参考文献

- 芙蓉書房出版 1994年 江戸の暮らし図鑑
朝日新聞社 1990年 新値段の風俗史
平凡社 1994年 台所道具いまむかし
三一書房 1987年 近代庶民生活誌⑥食・住
弘文堂 1979年 日本風俗史事典
柏書房図録 1991年 民具入門事典
河出書房新社 1990年 民具の博物誌
大宮市立博物館1996年 特別展図録夜の嫁入り
埼玉県立民俗文化センター 1991年 研究紀要 第7号
白岡町 1993年 白岡町史民俗編
埼玉県 1986年 埼玉県史別編2 (埼玉県)
栃木県立博物館1987年 企画展図録わたしたちの生活と家具
埼玉県立さきたま資料館 1985年 北武蔵の農具

このパンフレットは、町史編集委員板垣時夫氏のご指導および資料館職員の協力を得て、中村啓子が作成しました。

宮代町教育委員会（郷土資料館）では町内に伝わる民俗文化を、町民の皆様にお聞きして、本にまとめる事業を行っています。このパンフレットの記載や展示につきまして、誤りや異なる使用方法などございましたら、ぜひお教えくださいますようお願い申し上げます。

企画展「昔のくらしの道具」

発行年月日 平成9年4月23日

編集発行 宮代町郷土資料館

〒345 埼玉県南埼玉郡宮代町西原289

☎0480-34-8882